

「屋敷森と彗星」

天体写真家にとって、彗星という被写体は、魅力に満ちています。数ある太陽系天体の中でも、尾があるのは彗星だけです。「今しか撮影できない」という期待感と焦りが同居しています。特に周期が長い彗星の場合、撮影のチャンスは一生に一度・・・ということもあります。

1997年に太陽に接近した、ヘール・ボップ彗星もそういう彗星の一つです。ヘール・ボップ彗星は、約2500年と長い周期を持って太陽に接近します。「長い」というのは、人間の生活のレベルでの話であって、太陽系の歴史から見れば一瞬の出来事と言えます。しかし、次回地球に接近するのは西暦4530年頃(46世紀)で、タロス星人並みに長生きでないとならば再会は難しいでしょう。

タロス星人(右)



当時私は、「彗星の追っかけ」をしていました。春休みには、南は石廊崎から、北は八甲田山麓まで、彗星の好観望地を求めて移動生活をしていました。どれだけ撮影しかた覚えていませんが、その中でも一番気に入っているのがこの写真です。

ヘール・ボップ彗星は、最も明るい時は-1等まで増光し、肉眼でもはっきり見えました。東京都内でも撮影が可能だったほどで、郊外ならば結構いい写真が撮れました

これは埼玉県羽生市で撮影したものです。このあたりは、まだ武蔵野の面影強く、農家の周囲には屋敷森も残っています。その屋敷森のシルエットに浮かぶ彗星という構図を狙ったのです。この写真を、後日この農家の御主人に差し上げたら、ものすごく感激してくれました。思い出の一枚です。

(お茶の水女子大学附属小学校
田中 千尋)